

五斗長垣内遺跡発掘調査報告

— 経営体育成基盤整備事業 五斗長地区に伴う発掘調査報告書 —



2011.3

淡路市教育委員会



1 遺跡遠景（播磨灘上空から）



2 遺跡遠景（東上空から）

巻首図版2 大型竪穴建物群



1 ④-3地区 竪穴建物群（北から）



2 ④-3地区 竪穴建物群（南西から）



1 SH-302 (南西から)

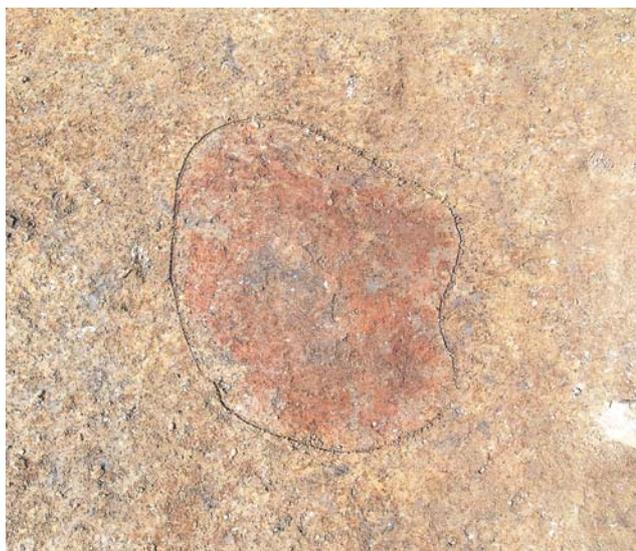


2 SH-303 (南西から)

卷首图版 4 炉跡



1 R20302 (SH-203)



2 R20501 (SH-205)



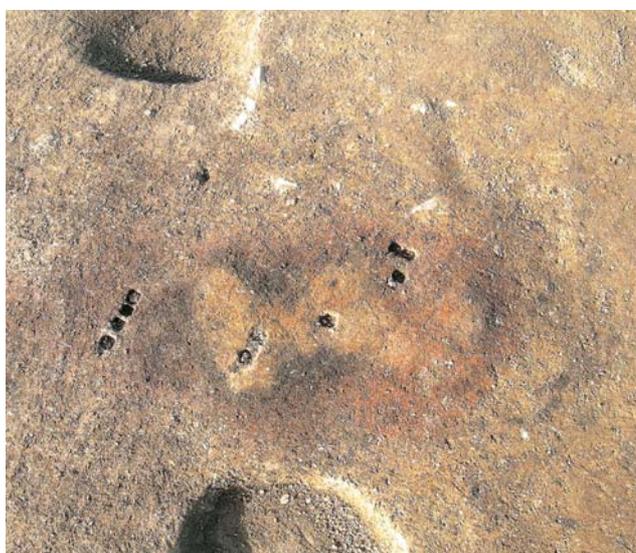
3 R30203 (SH-302)



4 R30401 (SH-304)



5 R30801 (SH-308)



6 R30209 (SH-302)





1 石製工具



2 サヌカイト製石器



1 焼土塊(1)



2 焼土塊(2)



1 赤色顔料付着敲石



2 ガラス玉・管玉

はじめに

毎日多くの船舶が瀬戸内海を往来しています。瀬戸内海東部の播磨灘を眼下に見る淡路島北部は、古来より畿内と瀬戸内・九州を結ぶ海上交通の要衝であり、人や物資の往来が盛んなところでした。また、万葉の時代から多くの歌人に愛されてきた風光明媚なところでもあります。

このような地の丘陵中腹に立地する五斗長垣内遺跡は、平成19年の圃場整備にあたり発見されました。発掘調査では、弥生時代後期の鉄器工房と見られる多数の竪穴建物跡が検出され、鍛冶炉や鍛冶工具なども残されており、当時の鉄器づくりを具体的に知りうる遺跡として注目されました。本遺跡の特色は、集落の中に少数の鍛冶工房が存在するのではなく、鉄器生産を専門とする集団を形成していた可能性が高いことです。

ここに発掘調査の成果を報告書として刊行させていただきます。本書が学術・教育資料として、いささかでもご活用いただければ幸いです。

おわりに、本遺跡の保存と活用にご理解いただきました地元五斗長地区の方々、また発掘調査から本書刊行にいたるまで多大なご指導をいただきました諸先生方をはじめ関係各位に衷心よりお礼申し上げます。

平成23年3月

淡路市教育委員会

教育長 森 和 重

例 言

- 1、本書は、経営体育成基盤整備事業五斗長地区に伴い、平成17～20年度に実施した五斗長垣内遺跡の発掘調査報告書である。
- 2、遺跡は、兵庫県淡路市黒谷1411番ほかにかに所在する。
- 3、調査は、兵庫県淡路県民局洲本土地区改良事務所の依頼を受け、淡路市教育委員会が実施した。
- 4、各年度の調査体制及び調査担当者については、本書第三章に記した。
- 5、発掘調査に係る測量基準点は、国土座標（第Ⅴ系）を使用し、方位は座標北を示す。また、本書で使用した標高は、東京湾平均海水準（T.P.）を基準とした海拔高を表す。
- 6、本書全体の編集は、淡路市教育委員会の伊藤宏幸が担当し、写真図版を大石雅一が編集した。執筆については目次に記した。
- 7、発掘作業は、㈱クワムラ（平成17・19・22年度）、㈱協同建設（平成18・19・20年度）に発掘作業を委託した。
- 8、遺構の実測は、航空写真測量によって行い、㈱イビソク（平成19年度）、写測エンジニアリング㈱（平成20年度）に委託した。
- 9、遺構の写真撮影は各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は谷川喜一が行った。
- 10、出土した石器の石材の鑑定については、兵庫県立人と自然の博物館の先山徹氏のご教示を得た。
- 11、焼土面（炉跡）の起源及び状態と考古地磁気年代分析（平成20年度）については、兵庫県立大学大学院生命理学研究科の森永速男教授、鉄製品の分析（平成21～22年度）については愛媛大学法文学部東アジア古代鉄文化研究センター長の村上恭通教授、石製品に付着した赤色顔料の分析（平成22年度）については九州国立博物館志賀智史氏の協力を得て、それぞれの機関に作業を委託した。
- 12、炭化物の樹種分析及び年代測定、花粉分析、ガラス製品の成分分析、及び土器の胎土分析についてはパリノサーヴェイ㈱に作業を委託した。
- 13、調査の記録及び出土遺物については、淡路市教育委員会で保管している。
- 14、最後に、発掘調査および報告書作成にあたっては、以下の機関並びに個人からご指導、ご教示を得た。機関名並びにご芳名を記して感謝の意を表す。

文化庁、兵庫県教育委員会、兵庫県立考古博物館、兵庫県教育委員会淡路教育事務所、兵庫県淡路県民局、兵庫県淡路県民局洲本土地区改良事務所、国立大学法人愛媛大学法文学部東アジア古代鉄文化研究センター、兵庫県立大学大学院生命理学研究科、九州国立博物館、五斗長土地改良区、五斗長町内会、㈱五斗長営農、五斗長まちづくり協議会

石野博信、浦上雅史、工楽善通、志賀智史、篠宮正、菅原康夫、多賀茂治、種定淳介、増渕徹、松下まり子、松木武彦、村上恭通、森岡秀人、森永速男、八木雅夫、山下史郎（敬称略・順不同）